

福岡医発第317号(地)

平成20年 5月 9日

各 医 師 会 長 殿



福岡県医師会  
会長 横倉 義武  
( 公 印 省 略 )

日本医師会認定産業医制度実施要領の改定について

日本医師会より、日医産業保健委員会答申（平成20年3月）に基づき産業医学研修カリキュラムの見直しを行い、実施要領を改定した旨、別紙のとおり通知がありましたのでご連絡いたします。

なお、本実施要領の産業医学研修会への適用は、平成20年度第3回申請（平成20年9月5日日医締切）からとなりますことにご留意下さい。

---

小郡三井医師会より

担当理事 毛利康茂  
会長 丸山 泉

# 日本医師会認定産業医制度 実施要領

平成20年3月

日本医師会

# 目 次

|               |   |
|---------------|---|
| I. 目 的        | 1 |
| II. 運営組織      | 1 |
| III. 制度発足     | 1 |
| IV. 認定および登録   | 1 |
| 1. 認 定        |   |
| 2. 申請手続き      |   |
| 3. 審査および認定証交付 |   |
| 4. 登 録        |   |
| V. 基礎研修会      | 2 |
| 1. 趣 旨        |   |
| 2. 研修内容       |   |
| 3. 開 催        |   |
| 4. 指定申請       |   |
| 5. 研修記録       |   |
| 6. 報 告        |   |
| VI. 更 新       | 3 |
| 1. 趣 旨        |   |
| 2. 申請手続き      |   |
| 3. 審査および認定証交付 |   |
| 4. 登 録        |   |
| 5. 更新手続きの猶予   |   |
| VII. 生涯研修会    | 4 |
| 1. 趣 旨        |   |
| 2. 研修内容       |   |
| 3. 開 催        |   |
| 4. 指定申請       |   |
| 5. 研修記録       |   |
| 6. 報 告        |   |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| Ⅷ. 称号（認定）の喪失および取り消し..... | 5 |
|--------------------------|---|

1. 称号（認定）の喪失

2. 称号（認定）の取り消し

|                     |    |
|---------------------|----|
| 付 産業医学研修カリキュラム..... | 巻末 |
|---------------------|----|

|                    |    |
|--------------------|----|
| 付 手続き等に用いる諸様式..... | 巻末 |
|--------------------|----|

## I. 目 的

日本医師会認定産業医制度は、産業医の資質向上と地域保健活動の一環である産業医活動の振興を図ることを目的とする。

## II. 運営組織

日本医師会認定産業医（以下、「認定産業医」という。）の認定審査等、本制度の円滑な運営を図るため、日本医師会に認定産業医制度運営委員会を設ける。

## III. 制度発足

本制度は平成2年度より施行する。

## IV. 認定および登録

### 1. 認 定

日本医師会会長は、所定のカリキュラムに基づく産業医学基礎研修（以下、「基礎研修」という。）50単位を修了した医師、またはそれと同等以上の研修を修了したと認められる医師（都道府県医師会長の推薦する医師）が認定産業医の称号を申請した場合には、審査の結果に基づきこれを付与する。

### 2. 申請手続き

認定産業医の称号を希望する医師は、次に定める書類に審査・登録料を添えて所属（非会員は勤務地）の都道府県医師会に提出する。

- ① 認定産業医新規申請書（別紙様式1）
- ② 医師免許証（写）（但し、非会員のみ）
- ③ 研修記録（産業医学研修手帳、または基礎研修と同等以上のカリキュラムを修了したことを証明する書類等）

### 3. 審査および認定証交付

都道府県医師会会長は、認定産業医新規申請書の提出を受けた場合には、申請者の基礎研修受講状況、産業医活動の状況等を個別に審査した上で、申請書および認定産業

医被推薦者一覧表を、別に定める日までに日本医師会長に提出する。

日本医師会長は、都道府県医師会長から推薦された医師について、認定産業医制度運営委員会および（常任）理事会の議を経て認定し、認定証（別紙様式2）を交付する。

#### 4. 登 録

日本医師会は、認定産業医登録台帳に認定証被交付者名等を登録する。

認定産業医としての登録有効期間は5年とする。

認定産業医として登録された者は、住所等登録事項に変更を生じたときは、すみやかに都道府県医師会を通じて、日本医師会に届け出なければならない。認定産業医が死亡、または転出した場合には、都道府県医師会は日本医師会に通知しなければならない。

### V. 基礎研修会

#### 1. 趣 旨

認定産業医の養成を目的として基礎研修会を設ける。

#### 2. 研修内容

基礎研修は別掲のカリキュラムに基づき、前期研修14単位以上、実地研修10単位以上、後期研修26単位以上の研修をもって修了とする。

このうち前期研修はカリキュラムに定める項目別単位数（総論2単位、健康管理2単位、メンタルヘルス対策1単位、健康保持増進1単位、作業環境管理2単位、作業管理2単位、有害業務管理2単位、産業医活動の実際2単位）を研修しなければならないが、実地研修、後期研修は必要な内容を選択して研修することができる。

#### 3. 開 催

基礎研修会は日本医師会ならびに都道府県医師会（複数の都道府県医師会で実施する場合も含む）において実施する。

日本医師会ならびに実施主体者（都道府県医師会等）は、基礎研修会の日時、場所等の必要事項を機関誌等を通じて会員等に周知する。

#### 4. 指定申請

基礎研修会の実施主体者は、日本医師会が示す標準カリキュラムを参考として、地域の特性を加味した研修カリキュラムを作成し、毎年、必要事項（研修会の日程、会場、時間、カリキュラム、講師、単位数、受講人数、受講資格、受講料等）を記載した「日本医師会認定産業医制度産業医学研修会申請書」（別紙様式3）を事前に日本医師会長に提出し、基礎研修会の指定を受ける。

#### 5. 研修記録

日本医師会は実施主体者を通じて「産業医学研修手帳」を受講者に交付し、実施主体者は受講単位修得の証明を行う。

日本医師会の指定した基礎研修会は、全国いずれの実施主体のものでも受講単位を証明できるものとする。

#### 6. 報 告

基礎研修会の実施主体者は、研修会終了後、必要事項を記載した「日本医師会認定産業医制度産業医学研修会報告書」（別紙様式3）により都道府県医師会を通じて日本医師会長に報告する。

### Ⅵ. 更 新

#### 1. 趣 旨

本制度が将来一層活用されるためには産業保健の動向や法律改正等の社会情勢の変化に関する最新知識の修得等、認定産業医が生涯研修を通じて資質の維持向上に努めることがきわめて重要である。

この趣旨により、本実施要領に基づく認定産業医の登録有効期間は5年とし、認定を受け登録した日から5年ごとに認定証の更新を受けることとする。

なお、更新には所定のカリキュラムに基づく産業医学生涯研修（以下、「生涯研修」という。）20単位以上（更新研修1単位以上、実地研修1単位以上、専門研修1単位以上の合計20単位以上）の研修が必要である。

#### 2. 申請手続き

認定産業医の更新を希望する医師は、次に定める書類に審査・登録料を添えて所属（非会員は勤務地）の都道府県医師会に提出する。

- ① 認定産業医更新申請書（別紙様式4）

- ② 研修記録（産業医学研修手帳、または生涯研修と同等以上のカリキュラムを修了したことを証明する書類等）

### 3. 審査および認定証交付

都道府県医師会長は、認定産業医から認定産業医更新申請書の提出を受けた場合には、申請者の生涯研修受講状況、産業医活動の状況等を審査した上で、申請書および認定産業医（更新）被推薦者一覧表を、別に定める日までに日本医師会長に提出する。

日本医師会長は、都道府県医師会長から推薦された医師について、認定産業医制度運営委員会および（常任）理事会の議を経て更新を認定し、認定証（別紙様式2）を交付する。

### 4. 登 録

日本医師会は、認定産業医登録台帳に認定証被交付者名等を登録する。

### 5. 更新手続きの猶予

更新の手続きに関する猶予期間は6か月とする。

## Ⅶ. 生涯研修会

### 1. 趣 旨

認定産業医の生涯研修を目的として生涯研修会を開催する。

### 2. 研修内容

生涯研修は別掲のカリキュラムに基づき、5年間に更新研修1単位以上、実地研修1単位以上、専門研修1単位以上の合計20単位以上の研修をもって修了とする。

### 3. 開 催

日本医師会は、認定産業医の生涯研修のために産業医学講習会を開催する。日本医師会が指定した都道府県医師会（複数の都道府県医師会が合同で実施する場合も含む）・教育機関等による研修会も同様の扱いとする。

日本医師会は、都道府県医師会を通じて産業医学講習会の開催を通知する。なお、日本医師会指定の生涯研修会については、日本医師会ならびに実施主体者が生涯研修会の日時、場所等の必要事項を機関誌等を通じて会員等に周知する。

#### 4. 指定申請

生涯研修会を都道府県医師会等で実施する場合、その実施主体者（都道府県医師会・教育機関等）は、実施にあたって、必要事項（研修会の日程、会場、時間、カリキュラム、講師、単位数、受講人数、受講資格、受講料等）を記載した「日本医師会認定産業医制度産業医学研修会申請書」（別紙様式3）を事前に日本医師会長に提出し、生涯研修会の指定を受ける。

なお、教育機関等の申請については、所在地の都道府県医師会を通じて行う。

#### 5. 研修記録

日本医師会は実施主体者を通じて「産業医学研修手帳」を受講者に交付し、実施主体者は受講単位修得の証明を行う。

日本医師会の指定した生涯研修会は、全国いずれの実施主体のものでも受講単位を証明できるものとする。

#### 6. 報 告

生涯研修会の実施主体者は、研修会終了後、必要事項を記載した「日本医師会認定産業医制度産業医学研修会報告書」（別紙様式3）により都道府県医師会を通じて日本医師会長に報告する。

### VIII. 称号（認定）の喪失および取り消し

#### 1. 称号（認定）の喪失

認定産業医は次の理由により、その称号（認定）を喪失する。

- ① 認定産業医の更新を受けないとき
- ② 認定産業医を辞退したとき
- ③ 死亡したとき
- ④ 医師の資格を失ったとき

#### 2. 称号（認定）の取り消し

日本医師会長は、認定産業医としてふさわしくない行為のあった医師に対して、認定産業医制度運営委員会および（常任）理事会の議を経て称号（認定）を取り消すことができる。

# 産業医学研修カリキュラム

## I. 研修カリキュラムの策定要領

研修会の実施主体者となる都道府県医師会等は、標準研修カリキュラムのなかから、研修の種類、項目、認定単位数等を、適宜、組み合わせて研修カリキュラムを策定する。また、基礎研修（後期研修・実地研修）、生涯研修（更新研修・実地研修・専門研修）では、ここに例示していない項目・内容であっても、適切なテーマ（例）のように産業医学に関係するテーマであれば研修カリキュラムに加えてもよい。

### A 基礎研修カリキュラム

日本医師会の「認定産業医」の資格取得に必要な基礎研修課程は、1. 前期研修、2. 実地研修、3. 後期研修の3つからなる。研修会の実施主体者は、地域の特性を考慮し、研修カリキュラムの種類、項目、修得単位数等を策定する。

#### 1. 前期研修

前期研修は、産業医活動を実際に行うための必要な基本的知識を学ぶ入門的な研修であるので、研修カリキュラムの項目・内容について網羅的に研修することが必要である。項目ごとの研修は、総論 2 単位、健康管理 2 単位、メンタルヘルス対策 1 単位、健康保持増進 1 単位、作業環境管理 2 単位、作業管理 2 単位、有害業務管理 2 単位、産業医活動の実際 2 単位の合計 14 単位の研修カリキュラムを策定する。産業医活動の実際については、視聴覚資料を教材として活用するとよい。なお、前期研修は、産業医活動を実際に行うために必要な基本的知識を学ぶ入門的な研修であるので、生涯研修と合同で開催することはできない。

#### 2. 実地研修

研修会の実施主体者は、実習、見学の場所の確保に留意するとともに、「認定産業医制度に基づく実地研修のガイドライン」（平成 13 年 10 月 4 日）に沿って企画運営し、実技実習が効率的かつ効果的に行われるよう配慮する必要がある。特に、職場巡視については、事業場の理解を得て実際に集団で職場巡視するとともに、事後の集団討論を介して、問題点の指摘、改善方策の樹立等の実務について実体験をさせるようカリキュラムを策定する。基礎研修（実地研修）と生涯研修（実地研修）と合同した研修会を開催してもよい。（合計 10 単位以上）

#### 3. 後期研修

後期研修は、原則として前期研修を修了した医師を対象とすることが望ましい。研修カリキュラムの策定に際しては、地域の特性を十分に考慮し、標準研修カリキュラムの項目・内容を主題として研修カリキュラムを策定するが、実務的、やや専門的、総括的な内容となるよう配慮する。研修内容によっては、基礎研修（後期研修）と生涯研修（専門研修）とを合同した研修会を開催してもよい。しかし、この場合には、研修内容が高いレベルのものであっても、基礎研修（後期研修）受講者が十分理解できるよう平易な講義が行われるよう特に留意する。（合計 26 単位以上研修）

## B 生涯研修カリキュラム

日本医師会の「認定産業医」の資格更新に必要な生涯研修課程は、1. 更新研修、2. 実地研修、3. 専門研修の3つからなる。研修会の実施主体者は、地域の特性を考慮し、研修カリキュラムの種類、項目、修得単位数等を策定する。(5年間で20単位以上研修)

### 1. 更新研修

短時間であってもよいが、労働衛生関係法規の改正点、通達の内容等を研修させるようカリキュラムを策定する。また、今後も労働衛生関係法規の改正が行われ、通達が出された時には、適時、新たなカリキュラムを策定し、更新研修を受講させることが必要である。

### 2. 実地研修

研修会の実施主体者は、実習、見学の場所の確保に留意するとともに、「認定産業医制度に基づく実地研修のガイドライン」(平成13年10月4日)に沿って企画運営し、実技実習が効率的かつ効果的に行われるよう配慮する必要がある。特に、職場巡視については、事業場の理解を得て実際に集団で職場巡視するとともに、事後の集団討論を介して、問題点の指摘、改善方策の樹立等の実務について実体験をさせることが必要である。

### 3. 専門研修

産業医活動の実際に必要な専門研修カリキュラムは、標準研修カリキュラムの項目・内容のなかから選択し、あるいは、組み合わせて、より実務的な、より専門的な、あるいは、より総合的な研修カリキュラムを策定する。

## Ⅱ. 基礎研修のための標準研修カリキュラム

### 1. 前期研修

#### (1) 総論

- 1) 労働衛生行政、労働衛生関係法規・関係通達
- 2) 労働衛生管理体制
- 3) 産業医のあり方、職務と倫理
- 4) 労働衛生活動の企画・評価、リスクアセスメント、労働安全衛生マネジメントシステム
- 5) 企業外労働衛生機関、外部諸機関
- 6) 職場巡視
- 7) 衛生委員会
- 8) 労働衛生教育
- 9) 危機管理
- 10) 労働契約、安全配慮義務
- 11) 労災補償、災害や疾病の原因調査
- 12) これからの産業保健

#### (2) 健康管理

- 1) 労働者の健康情報の取扱い
- 2) 健康診断と事後措置・保健指導
- 3) 長時間労働者に対する面接指導
- 4) 主治医との連携、健康管理の機能
- 5) 就業適性、職場復帰
- 6) 中高年齢労働者の健康管理
- 7) 女性・年少労働者の健康管理
- 8) 障害者の健康管理
- 9) 海外勤務労働者・外国人労働者の健康管理
- 10) 非正規雇用労働者・単身赴任者の健康管理
- 11) 健康教育・健康相談の事例
- 12) 職場における健康管理活動の企画・評価

#### (3) メンタルヘルス対策

- 1) 職場におけるストレス対策
- 2) 労働者のメンタルヘルス不調への対応

#### (4) 健康保持増進

- 1) 健康測定、トータル・ヘルスプロモーション・プラン
- 2) 職場における健康づくりスタッフ
- 3) 職場における健康づくりの事例

(5) 作業環境管理

- 1) 作業環境測定と評価
- 2) 管理濃度と許容濃度
- 3) 生物学的モニタリング
- 4) 作業環境の改善
- 5) 環境対策設備
- 6) 一般環境の衛生管理

(6) 作業管理

- 1) 労働生理
- 2) 人間工学
- 3) 作業時間、作業方法、作業姿勢の改善
- 4) 労働衛生保護具

(7) 有害業務管理

- 1) 物理的有害業務の管理（暑熱、騒音・振動、放射線、重量物、異常気圧）
- 2) 化学的有害業務の管理（粉じん、金属、有機溶剤、ガス、酸素欠乏等）
- 3) その他の有害業務の管理（病原体等生物学的因子、VDT 等）

(8) 産業医活動の実際

- 1) 産業医活動の事例
- 2) 作業環境・作業管理の実際
- 3) 職場巡視と事後討論
- 4) 健康診断結果の活用
- 5) 作業関連疾患の管理
- 6) 健康づくりの実際
- 7) 救急処置

## 2. 実地研修

(1) 健康管理

- 1) 健康診断結果の読み方
- 2) 健康診断結果に基づく事後措置の事例
- 3) 長時間労働者の面接指導の実際
- 4) 健診データの解析

適切なテーマ（例）

「健康診断結果の判定と事後措置」、

「健康診断・面接指導の結果に基づく事業者との連携」、

「過重労働・メンタルヘルス対策における面接指導の実際」

(2) じん肺の胸部エックス線検査

- 1) フィルム読影
- 2) 管理区分の決定

適切なテーマ (例)

「じん肺胸部エックス線フィルムの読影」、「じん肺管理区分の判定」、  
「石綿関連疾患の画像診断」

(3) メンタルヘルス対策

- 1) メンタルヘルス不調の事例
- 2) 疲労対策の事例
- 3) カウンセリングの実際

適切なテーマ (例)

「メンタルヘルス不調の労働者の事例検討」、  
「職場における疲労の評価と対策」、「職場復帰支援システムの事例検討」

(4) 健康保持増進

- 1) 健康測定
- 2) 運動プログラム、運動指導の実際
- 3) 栄養指導の実際
- 4) 保健指導の実際
- 5) 指導結果の事後措置

適切なテーマ (例)

「トータル・ヘルスプロモーション・プラン (THP) に基づく健康測定」、  
「最大酸素摂取量の測定法」、「栄養指導の実際」、「保健指導の実際」

(5) 救急処置

- 1) 酸素欠乏、急性中毒等
- 2) AED (自動体外式除細動器) の活用

適切なテーマ (例)

「産業医による救急処置」、「職場における AED の導入と活用」

(6) 作業環境管理・作業管理

- 1) 作業環境、生体影響の測定方法、測定器具、管理区分の決定
  - ①一般環境 (温度、湿度、風速、照度、その他)
  - ②温熱環境 (温度、輻射熱、WBGT)
  - ③騒音環境 (騒音レベル、周波数分析、オーディオグラフィー)
  - ④振動環境 (振動レベル、振動覚検査)
  - ⑤粉じん (デジタル粉じん計、吸入性粉じん、肺機能検査)
  - ⑥化学物質 (サンプリング、ガスクロマトグラフィー、原子吸光分析、ガス検知管)
  - ⑦生物学的モニタリング (有機溶剤、鉛等)

2) 作業管理の実際

①作業強度、作業姿勢などの評価

②労働衛生保護具の適正な選択と使用の方法

3) 作業環境や作業の改善の事例

適切なテーマ (例)

「〇〇職場における作業環境の測定」、「〇〇職場の作業環境の改善」

(7) 職場巡視と討論

1) 職場巡視の方法、評価、記録

2) 職場巡視マニュアルの利用

3) 職場巡視と事後討論

4) 事例の検討

適切なテーマ (例)

「産業医による職場巡視の実際」、「〇〇職場の職場巡視」、

「職場巡視の結果報告書の作成」、「職場巡視を通じた危険有害要因の同定」

3. 後期研修

(1) 総論

1) 産業医のあり方、職務と倫理の実際

2) 事業者や労働組合等との連携協力の実例

3) 衛生委員会の活性化

4) リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステムの実例

5) 産業保健における統計の活用

6) 産業保健に関する情報源

7) 産業保健活動の評価

8) 労災補償・災害防止の実例

9) 地域産業保健センターにおける活動

10) 環境因子の健康影響に関する最近の話題

11) 産業保健と地域保健の連携

12) 産業保健の歴史・課題・将来の動向

13) 職場別の労働衛生活動

14) 産業医活動をめぐる法的な課題

15) 最近の労働衛生行政

16) 産業医の職務に係る労働衛生関係法規の改正

適切なテーマ (例)

「産業医と産業看護職との連携」、「衛生委員会の活性化」、

「リスクアセスメントにおける産業医の役割」、

「労働安全衛生マネジメントシステムについて」、

「産業医における疫学の活用」、「産業保健に係る情報源について」、

「〇〇事業における労働衛生活動の評価」、

「〇〇疾患の業務上外の認定について」、「職場における災害医療体制」、

「安全管理と災害防止」、「効果的な地域産業保健センター活動について」、  
「環境因子の発がん性の評価」、「事業場周辺の地域住民への健康影響の予防」、  
「グループ経営における産業医体制」、  
「構内請負事業場における労働衛生管理体制」、「小規模事業場の産業保健活動」、  
「事業場への個別訪問による産業保健活動」、「〇〇業の労働衛生活動」、  
「〇〇業における産業医活動の実際」、「判例に学ぶ産業医活動」、  
「アメリカ合衆国における産業医活動」「新しい労働災害防止計画」、  
「(労働衛生に関する) 〇〇指針・〇〇ガイドライン」、  
「産業医に必要な労働衛生法規の知識」、「健康診断項目の改正」、  
「業務上疾病の認定基準について」、「労災保険制度の改正点」、  
「産業医活動と民事訴訟」、「過労死、メンタルヘルスに関する裁判例」、  
「男女雇用機会均等法における母性健康管理措置」

## (2) 労働衛生管理体制（総括管理）

- 1) 産業保健活動の経済的評価
- 2) 企業の社会的責任（CSR）としての産業保健
- 3) 雇用形態の多様化と産業保健
- 4) 産業構造の変化と産業保健
- 5) 労働衛生管理に関する最近の話題

適切なテーマ（例）

「企業における安全配慮義務について」、「雇用の多様化と健康管理」

## (3) 健康管理

- 1) 職業性疾病の予防
- 2) 労働者の健康情報の保護と活用
- 3) 健康診断と事後措置の事例
- 4) 長時間労働者の面接指導の事例
- 5) 職場復帰の事例
- 6) 中高年齢労働者の健康管理の事例
- 7) 女性労働者の健康管理、母性保護の事例
- 8) 障害者の健康管理の事例
- 9) 海外勤務労働者・外国人労働者の健康管理の事例
- 10) 非正規雇用労働者・単身赴任者の健康管理の事例
- 11) 健康教育・健康相談の事例
- 12) 健康管理活動の評価の事例
- 13) 健康診断・面接指導に関する新しい知見
- 14) 健康管理に関する最近の話題
- 15) 健康管理に関する省令改正

適切なテーマ（例）

「職業病の病態と管理」、「アスベスト関連疾患の予防」、「職業性皮膚障害」、  
「職場における腰痛対策」、「有機溶剤中毒」、「職業性呼吸器疾患の予防」、  
「職業・環境因子によるアレルギーの予防」、「労働者の健康情報の保護と活用」、

「産業保健における健康情報の疫学的活用」、「特殊健康診断の実施と事後措置」、  
「過重労働による健康障害の防止対策」、「医師の過重労働対策」、  
「職場復帰の支援」「母性健康管理の実践」、「海外勤務労働者の健康管理」、  
「事業場における感染症対策」、「職場におけるエイズ教育」、  
「労働者のメタボリックシンドローム対策」、  
「職場における予防接種のあり方」、「〇〇職の就業適性」、  
「交替勤務に従事する労働者の健康管理」、「〇〇病のある労働者の就業適性」、  
「睡眠障害と就業適性」、「労働者の生体リズムと健康」、  
「運輸業における睡眠時無呼吸症候群の危険性」、「作業関連疾患の予防」

#### (4) メンタルヘルス対策

- 1) 職場におけるメンタルヘルス対策の事例
- 2) 労働者のストレスマネジメント
- 3) 労働者のメンタルヘルス不調への対応の事例

適切なテーマ (例)

「メンタルヘルス対策における産業医の役割」、「職場における積極的傾聴」、  
「労働者のためのストレスコーピング」、  
「職場におけるストレス評価方法 (質問紙等)」、  
「メンタルヘルス不調から職場復帰した労働者への対応」、  
「職場復帰支援システム」、  
「職場におけるメンタルヘルス対策に関する最近の知見」、  
「職業性ストレスと精神疾患 (うつ病、気分障害、適応障害、社会不安障害等)」  
「事業場外資源との連携方法」、「労働者のうつ病・自殺の予防」

#### (5) 健康保持増進

- 1) 職場における健康づくりの事例
- 2) 健康測定
- 3) 特定健康診査・特定保健指導について

適切なテーマ (例)

「〇〇業界における健康づくり活動」、「健康保持増進体制」、「THPの実践」、  
「特定健診・特定保健指導における産業医の役割」、「職場における禁煙支援」、  
「労働者の減量活動」、「労働者の行動変容につながる健康指導」、  
「快適職場づくり」、「職場における喫煙対策、分煙対策」、  
「〇〇作業の快適化について」

#### (6) 作業環境管理

- 1) 作業環境測定と評価
- 2) 生物学的モニタリング
- 3) 作業環境改善と評価の事例

適切なテーマ (例)

「騒音測定の実践」、「有機溶剤の生物学的モニタリング」、  
「有機溶剤取扱い職場の作業環境管理」、「事務所における室内環境の衛生管理」、

「局所排気装置の正しい管理方法」、「個人曝露の評価に関する最近の知見」、  
「個人曝露測定」、「労働衛生設備の定期自主点検」、  
「作業環境管理における産業医の役割」、「作業環境管理に関する最近の知見」

#### (7) 作業管理

##### 1) 作業管理の事例

作業負荷の改善、標準作業の設定、ストレス管理、作業者の教育訓練等

##### 2) 安全管理の事例

ヒューマン・エラー対策、労働生理・人間工学からの改善

##### 3) 労働衛生保護具の選択と使用

適切なテーマ (例)

「〇〇職場の疲労対策」、「作業負荷の評価と改善」、「VDT 作業の改善」、  
「作業姿勢」、「重量物取扱い作業の改善」、「防毒マスクの適正な取扱い」、  
「産業疲労の測定と評価」、「作業方法の改善に関する最近の知見」、  
「作業管理における人間工学的対策」、  
「医療安全管理のためのヒューマン・エラー対策」、  
「労働衛生保護具の適正な選択と管理」、  
「ワークステーションの改善に関する最近の知見」

#### (8) 有害業務管理

##### 1) 高温・低温環境下の業務の事例

##### 2) 騒音業務の事例

##### 3) 振動業務の事例

##### 4) 異常気圧下の業務の事例

##### 5) 電離放射線・非電離放射線取扱い業務の事例

##### 6) 重量物取扱い業務の事例

##### 7) 筋・骨格系の作業負荷のある業務の事例

##### 8) 粉じん業務の事例

##### 9) 有機溶剤取扱い業務の事例

##### 10) 酸素欠乏危険業務の事例

##### 11) 化学物質取扱い業務の事例

##### 12) 生物学的要因の負荷の事例

##### 13) 過重労働・心理的負荷の事例

##### 14) 職場別の有害業務対策の事例

適切なテーマ (例)

「熱中症対策」、「騒音性難聴」、「騒音作業の改善」、「粉塵業務における塵肺」、  
「石綿取扱い業務」、「有機溶剤作業の改善」、  
「酸素欠乏症等の災害事例と安全作業」、  
「職場における化学物質のリスクアセスメント」、  
「職場における新規化学物質の管理」、  
「医療・介護職場における感染リスク対策」、「職場におけるアレルゲンの対策」、  
「職場におけるダイオキシン対策」、「〇〇業における有害業務対策」、

「新しい化学物質対策－国連勧告GHS、SDS」

(9) 労働衛生教育

- 1) 雇入時の労働衛生教育の事例
- 2) 管理監督者の労働衛生教育の事例
- 3) 有害業務の特別教育の事例

適切なテーマ (例)

「効果的な労働衛生教育に関する最近の知見」

### Ⅲ. 生涯研修のための標準研修カリキュラム

#### 1. 更新研修

##### (1) 労働衛生関係法規と関係通達の改正

- 1) 最近の労働衛生行政
- 2) 産業医の職務に係る労働衛生関係法規の改正

適切なテーマ（例）

「新しい労働災害防止計画」、  
「(労働衛生に関する) ○○指針・○○ガイドライン」、  
「産業医に必要な労働衛生法規の知識」、「健康診断項目の改正」、  
「業務上疾病の認定基準について」、「労災保険制度の改正点」、  
「産業医活動と民事訴訟」、「過労死、メンタルヘルスに関する裁判例」、  
「男女雇用機会均等法における母性健康管理措置」

#### 2. 実地研修

##### (1) 健康管理

- 1) 健康診断結果の読み方
- 2) 健康診断結果に基づく事後措置の事例
- 3) 長時間労働者の面接指導の実際
- 4) 健診データの解析

適切なテーマ（例）

「健康診断結果の判定と事後措置」、  
「健康診断・面接指導の結果に基づく事業者との連携」、  
「過重労働・メンタルヘルス対策における面接指導の実際」

##### (2) じん肺の胸部エックス線検査

- 1) フィルム読影
- 2) 管理区分の決定

適切なテーマ（例）

「じん肺胸部エックス線フィルムの読影」、「じん肺管理区分の判定」、  
「石綿関連疾患の画像診断」

##### (3) メンタルヘルス対策

- 1) メンタルヘルス不調の事例
- 2) 疲労対策の事例
- 3) カウンセリングの実際

適切なテーマ（例）

「メンタルヘルス不調の労働者の事例検討」、  
「職場における疲労の評価と対策」、「職場復帰支援システムの事例検討」

#### (4) 健康保持増進

- 1) 健康測定
- 2) 運動プログラム、運動指導の実際
- 3) 栄養指導の実際
- 4) 保健指導の実際
- 5) 指導結果の事後措置

適切なテーマ (例)

「トータル・ヘルスプロモーション・プラン (THP) に基づく健康測定」、  
「最大酸素摂取量の測定法」、「栄養指導の実際」、「保健指導の実際」

#### (5) 救急処置

- 1) 酸素欠乏、急性中毒等
- 2) AED (自動体外式除細動器) の活用

適切なテーマ (例)

「産業医による救急処置」、「職場における AED の導入と活用」

#### (6) 作業環境管理・作業管理

- 1) 作業環境、生体影響の測定方法、測定器具、管理区分の決定
  - ①一般環境 (温度、湿度、風速、照度、その他)
  - ②温熱環境 (温度、輻射熱、WBGT)
  - ③騒音環境 (騒音レベル、周波数分析、オーディオグラフィー)
  - ④振動環境 (振動レベル、振動覚検査)
  - ⑤粉じん (デジタル粉じん計、吸入性粉じん、肺機能検査)
  - ⑥化学物質 (サンプリング、ガスクロマトグラフィー、原子吸光分析、ガス検知管)
  - ⑦生物学的モニタリング (有機溶剤、鉛等)
- 2) 作業管理の実際
  - ①作業強度、作業姿勢などの評価
  - ②労働衛生保護具の適正な選択と使用の方法
- 3) 作業環境や作業の改善の事例

適切なテーマ (例)

「〇〇職場における作業環境の測定」、「〇〇職場の作業環境の改善」

#### (7) 職場巡視と討論

- 1) 職場巡視の方法、評価、記録
- 2) 職場巡視マニュアルの利用
- 3) 職場巡視と事後討論
- 4) 事例の検討

適切なテーマ (例)

「産業医による職場巡視の実際」、「〇〇職場の職場巡視」、  
「職場巡視の結果報告書の作成」、「職場巡視を通じた危険有害要因の同定」

### 3. 専門研修

#### (1) 総論

- 1) 産業医のあり方、職務と倫理の実際
- 2) 事業者や労働組合等との連携協力の実際
- 3) 衛生委員会の活性化
- 4) リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステムの実際
- 5) 産業保健における統計の活用
- 6) 産業保健に関する情報源
- 7) 産業保健活動の評価
- 8) 労災補償・災害防止の実際
- 9) 地域産業保健センターにおける活動
- 10) 環境因子の健康影響に関する最近の話題
- 11) 産業保健と地域保健の連携
- 12) 産業保健の歴史・課題・将来の動向
- 13) 職場別の労働衛生活動
- 14) 産業医活動をめぐる法的な課題

適切なテーマ（例）

「産業医と産業看護職との連携」、「衛生委員会の活性化」、  
「リスクアセスメントにおける産業医の役割」、  
「労働安全衛生マネジメントシステムについて」、  
「産業医における疫学の活用」、「産業保健に係る情報源について」、  
「〇〇事業における労働衛生活動の評価」、  
「〇〇疾患の業務上外の認定について」、「職場における災害医療体制」、  
「安全管理と災害防止」、「効果的な地域産業保健センター活動について」、  
「環境因子の発がん性の評価」、「事業場周辺の地域住民への健康影響の予防」、  
「グループ経営における産業医体制」、  
「構内請負事業場における労働衛生管理体制」、「小規模事業場の産業保健活動」、  
「事業場への個別訪問による産業保健活動」、「〇〇業の労働衛生活動」、  
「〇〇業における産業医活動の実際」、「判例に学ぶ産業医活動」、  
「アメリカ合衆国における産業医活動」

#### (2) 労働衛生管理体制（総括管理）

- 1) 産業保健活動の経済的評価
- 2) 企業の社会的責任（CSR）としての産業保健
- 3) 雇用形態の多様化と産業保健
- 4) 産業構造の変化と産業保健
- 5) 労働衛生管理に関する最近の話題

適切なテーマ（例）

「企業における安全配慮義務について」、「雇用の多様化と健康管理」

### (3) 健康管理

- 1) 職業性疾病の予防
- 2) 労働者の健康情報の保護と活用
- 3) 健康診断と事後措置の事例
- 4) 長時間労働者の面接指導の事例
- 5) 職場復帰の事例
- 6) 中高年齢労働者の健康管理の事例
- 7) 女性労働者の健康管理、母性保護の事例
- 8) 障害者の健康管理の事例
- 9) 海外勤務労働者・外国人労働者の健康管理の事例
- 10) 非正規雇用労働者・単身赴任者の健康管理の事例
- 11) 健康教育・健康相談の事例
- 12) 健康管理活動の評価の事例
- 13) 健康診断・面接指導に関する新しい知見
- 14) 健康管理に関する最近の話題

#### 適切なテーマ (例)

「職業病の病態と管理」、「アスベスト関連疾患の予防」、「職業性皮膚障害」、  
「職場における腰痛対策」、「有機溶剤中毒」、「職業性呼吸器疾患の予防」、  
「職業・環境因子によるアレルギーの予防」、「労働者の健康情報の保護と活用」、  
「産業保健における健康情報の疫学的活用」、「特殊健康診断の実施と事後措置」、  
「過重労働による健康障害の防止対策」、「医師の過重労働対策」、  
「職場復帰の支援」、「母性健康管理の実際」、「海外勤務労働者の健康管理」、  
「事業場における感染症対策」、「職場におけるエイズ教育」、  
「労働者のメタボリックシンドローム対策」、  
「職場における予防接種のあり方」、「〇〇職の就業適性」、  
「交替勤務に従事する労働者の健康管理」、「〇〇病のある労働者の就業適性」、  
「睡眠障害と就業適性」、「労働者の生体リズムと健康」、  
「運輸業における睡眠時無呼吸症候群の危険性」、「作業関連疾患の予防」

### (4) メンタルヘルス対策

- 1) 職場におけるメンタルヘルス対策の事例
- 2) 労働者のストレスマネジメント
- 3) 労働者のメンタルヘルス不調への対応の事例

#### 適切なテーマ (例)

「メンタルヘルス対策における産業医の役割」、「職場における積極的傾聴」、  
「労働者のためのストレスコーピング」、  
「職場におけるストレス評価方法（質問紙等）」、  
「メンタルヘルス不調から職場復帰した労働者への対応」、  
「職場復帰支援システム」、  
「職場におけるメンタルヘルス対策に関する最近の知見」、  
「職業性ストレスと精神疾患（うつ病、気分障害、適応障害、社会不安障害等）」  
「事業場外資源との連携方法」、「労働者のうつ病・自殺の予防」

#### (5) 健康保持増進

- 1) 職場における健康づくりの事例
- 2) 健康測定
- 3) 特定健康診査・特定保健指導について

適切なテーマ（例）

「〇〇業界における健康づくり活動」、「健康保持増進体制」、「T H P の実際」、  
「特定健診・特定保健指導における産業医の役割」、「職場における禁煙支援」、  
「労働者の減量活動」、「労働者の行動変容につながる健康指導」、  
「快適職場づくり」、「職場における喫煙対策、分煙対策」、  
「〇〇作業の快適化について」

#### (6) 作業環境管理

- 1) 作業環境測定と評価
- 2) 生物学的モニタリング
- 3) 作業環境改善と評価の事例

適切なテーマ（例）

「騒音測定の実際」、「有機溶剤の生物学的モニタリング」、  
「有機溶剤取扱い職場の作業環境管理」、「事務所における室内環境の衛生管理」、  
「局所排気装置の正しい管理方法」、「個人曝露の評価に関する最近の知見」、  
「個人曝露測定」、「労働衛生設備の定期自主点検」、  
「作業環境管理における産業医の役割」、「作業環境管理に関する最近の知見」

#### (7) 作業管理

- 1) 作業管理の事例  
作業負荷の改善、標準作業の設定、ストレス管理、作業者の教育訓練等
- 2) 安全管理の事例  
ヒューマン・エラー対策、労働生理・人間工学からの改善
- 3) 労働衛生保護具の選択と使用

適切なテーマ（例）

「〇〇職場の疲労対策」、「作業負荷の評価と改善」、「VDT 作業の改善」、  
「作業姿勢」、「重量物取扱い作業の改善」、「防毒マスクの適正な取扱い」、  
「産業疲労の測定と評価」、「作業方法の改善に関する最近の知見」、  
「作業管理における人間工学的対策」、  
「医療安全管理のためのヒューマン・エラー対策」、  
「労働衛生保護具の適正な選択と管理」、  
「ワークステーションの改善に関する最近の知見」

#### (8) 有害業務管理

- 1) 高温・低温環境下の業務の事例
- 2) 騒音業務の事例
- 3) 振動業務の事例
- 4) 異常気圧下の業務の事例

- 5) 電離放射線・非電離放射線取扱い業務の事例
- 6) 重量物取扱い業務の事例
- 7) 筋・骨格系の作業負荷のある業務の事例
- 8) 粉じん業務の事例
- 9) 有機溶剤取扱い業務の事例
- 10) 酸素欠乏危険業務の事例
- 11) 化学物質取扱い業務の事例
- 12) 生物学的要因の負荷の事例
- 13) 過重労働・心理的負荷の事例
- 14) 職場別の有害業務対策の事例

適切なテーマ（例）

「熱中症対策」、「騒音性難聴」、「騒音作業の改善」、「粉塵業務における塵肺」、  
「石綿取扱い業務」、「有機溶剤作業の改善」、  
「酸素欠乏症等の災害事例と安全作業」、  
「職場における化学物質のリスクアセスメント」、  
「職場における新規化学物質の管理」、  
「医療・介護職場における感染リスク対策」、「職場におけるアレルゲンの対策」、  
「職場におけるダイオキシン対策」、「〇〇業における有害業務対策」、  
「新しい化学物質対策－国連勧告GHS、SDS」、  
「産業廃棄物等に関わる環境問題」（生涯研修・専門研修に限定）

#### （9）労働衛生教育

- 1) 雇入時の労働衛生教育の事例
- 2) 管理監督者の労働衛生教育の事例
- 3) 有害業務の特別教育の事例

適切なテーマ（例）

「効果的な労働衛生教育に関する最近の知見」

## 手続き等に用いる諸様式

様式 1 日本医師会認定産業医新規申請書

様式 2 認定証

様式 3 日本医師会認定産業医制度産業医学研修会  
申請書・報告書

様式 4 日本医師会認定産業医更新申請書

# 様式1 日本医師会認定産業医新規申請書

## 日本医師会認定産業医新規申請書

日本医師会印

日本医師会長 殿

日本医師会認定産業医制度における認定を受けたので、研修記録に添付・登録料を添えて申請いたします。

申請する都道府県 都道府県 氏名 印

この欄は記入しなさい。

認定証番号: 有効期限:

太枠線内に必ず記入して下さい。

|            |                     |       |         |       |       |       |       |
|------------|---------------------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 1. 医師登録番号  | 1. 明治               | 2. 大正 | 3. 昭和   | 4. 平成 | 年     | 月     | 日     |
| 3. フリガナ    | 姓 名                 |       |         |       |       |       |       |
| 4. 申請者氏名   | 姓 名                 |       |         |       |       |       |       |
| 5. 性別      | 1. 男                | 2. 女  | 6. 生年月日 | 1. 明治 | 2. 大正 | 3. 昭和 | 4. 平成 |
| 7. 所属・勤務の所 | 1. 間 業 2. 勤務 3. その他 |       |         |       |       |       |       |

|           |      |     |
|-----------|------|-----|
| 8. 所属施設名  | TEL  | FAX |
| 9. 施設所在地  | 都道府県 |     |
| 10. 自宅現住所 | TEL  | FAX |

|                                                         |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---------------------------------------------------------|---|-------------|----------|-----------|----------|----------|----------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 11. E-MAILアドレス                                          |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 12. 診療科目<br>みなたの取り扱う<br>診療科目を10桁<br>内で番号に○を<br>つけてください。 | I |             | 01 内科    | 02 呼吸器科   | 03 心臓内科  | 04 消化器科  | 05 腎臓科   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   |             | 06 循環器科  | 07 アレルギー科 | 08 リウマチ科 | 09 小児科   | 10 精神科   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   |             | 11 精神科   | 12 神経科    | 13 神経内科  | 14 小児科   | 15 皮膚科   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   |             | 20 外科    | 21 整形外科   | 22 形成外科  | 23 美容外科  | 24 脳神経外科 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   |             | 25 呼吸器外科 | 26 心臓血管外科 | 27 小児科   | 28 産婦人科  | 29 小児科   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   | 30 産婦人科     | 31 産科    | 32 婦人科    | 33 眼科    | 34 耳鼻咽喉科 |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   | 35 耳鼻咽喉科    | 36 皮膚科   | 37 泌尿器科   | 38 皮膚科   | 39 皮膚科   |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   | 50 レビデーション科 | 51 放射線科  | 52 放射線科   | 53 放射線科  | 54 放射線科  |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   | 80 その他      |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                         |   | 99 無        |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 13. 産業医活動                                               |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1. している 2. していない                                        |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 14. 職歴(年次勤務数(専任含む))                                     |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 場所                                                      |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 15. 事業場                                                 |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 事業場名:                                                   |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| TEL FAX                                                 |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 産業医区分                                                   |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1. 専任 2. 専任                                             |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 事業場名:                                                   |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| TEL FAX                                                 |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 産業医区分                                                   |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1. 専任 2. 専任                                             |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 16. 労働衛生コンサルタント                                         |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1. 有 2. 無                                               |   |             |          |           |          |          |          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

# 証

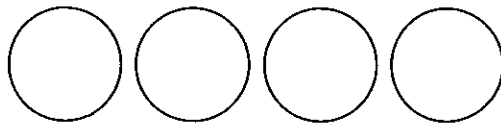
## 殿

あなたは日本医師会認定産業医  
であることを証します。

認定年月日 平成○年○月○日

認定有効期限 平成○年○月○日

日本医師会長



この証は第 ○○○○○○○○ 号をもって日本医師会の  
原簿に登録した

日本医師会事務局長

様式3 日本医師会認定産業医制度産業医学研修会申請書・報告書

日本医師会認定産業医制度産業医学研修会申請書・報告書

平成 年 月 日

日本医師会会長殿

医師会長

〇 〇 〇 〇 印

|                |          |        |          |   |
|----------------|----------|--------|----------|---|
| 1.主 催<br>(共催)  | 医師会      |        | 医師会      |   |
| (共催)           | 連絡先URL   |        | 連絡先URL   |   |
| 2.開 催 日        | 平成 年 月 日 |        | 平成 年 月 日 |   |
| 3.開催場所         |          |        |          |   |
| 4.時 間          | : ~ :    |        | : ~ :    |   |
| 5.研 修<br>テ ー マ | 講師名(併誌)  |        | 講師名(併誌)  |   |
| 6.単 位<br>数     | 基礎研修     | 単位 ( ) | 単位 ( )   |   |
|                | 前 実      | 単位     | 単位       |   |
|                | 後 実      | 単位     | 単位       |   |
|                | 生 涯      | 単位     | 単位       |   |
|                | 研 修      | 単位     | 単位       |   |
|                | 専 門      | 単位     | 単位       |   |
| 7.受講人数**       | 人        |        | 人        |   |
| 8.受講資格**       |          |        |          |   |
| 9.受 講 料**      |          |        |          |   |
| 10.修了者数***     | 基礎:      | 人      | 生涯:      | 人 |

\*前期研修の場合は、単位数を記入し、( )内に項目(1.総論,2.健康管理,3.メンタルヘルスケア概論,4.健康保持増進,5.作業環境管理,6.作業管理,7.有害業務管理,8.産業医活動の実践)の番号を記入して下さい。  
 \*\*受講人数、受講資格、受講料に差がある場合は、明記して下さい。  
 \*\*\*修了者数は、研修終了後2ヶ月以内に本用紙に記入し、日本医師会へ報告して下さい。  
 同時に抄録等添付して下さい。

様式 4 日本医師会認定産業医更新申請書

日本医師会認定産業医更新申請書

日本医師会印

日本医師会認定産業医制度における認定の更新を受けたいので、研修記録に審査・登録料を添えて申請いたします。

申請する都道府県  氏名

1～13の項目は打ち出し内容に変更、訂正のある場合のみ記入して下さい。

この欄は記入しないで下さい。

認定証番号:

有効期限:

1. 申請者氏名:

2. 性別:

3. 生年月日:

4. 医師登録番号:

5. 医師登録日:

6. 開業・勤務の別:

7. 所属施設名:

8. 施設所在地:

TEL  FAX

9. 自宅預住所:

TEL  FAX

10. E-Mail アドレス:

11. 診療科目:

12. 産業医活動:

13. 嘱託事業場数 (専属含む):

以下の項目は必ず記入して下さい。

14. 事業場:

事業場名:

TEL  FAX

産業医区分:

事業場名:

TEL  FAX

産業医区分:

15. 労働衛生コンサルタント資格:

1. 有 2. 無